

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201513		
法人名	株式会社 末広福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーガーデン		
所在地	〒819-0041 福岡県福岡市西区拾六町1丁目21番11号 092-883-2223		
自己評価作成日	平成 24年04月5日	評価結果確定日	平成24年05月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームフラワーガーデンは4月で7周年を迎えます。2、3に階は有料老人ホームと短期入所、1回にはデイサービスが庭園を囲むように併設、裏には花や野菜を育てる菜園。そこには名前の由来通り、いつも季節感を感じながら心穏やかに花々が咲き乱れています。近隣には保育園や団地があり、互いの行事に参加して楽しんでいます。特に恒例となっている夏祭りには、ボランティアや地域業者の協力のもと敷地内に露店を出すことで、多くの近隣住民の方にも来て頂けるふれあいの場となっています。また、定期的開催しているピアノコンサートやジャズコンサートは、音楽療法の一環と位置付け、五感で感じて頂けると思います。入居者様に対しては、一人ひとりの個性を大切に、笑顔が絶えない家庭的な雰囲気の中でおてもなし出来るよう心掛けて接しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開発が進む郊外の交通アクセスの良い場所に、潇洒な作りの有料老人ホーム、デイサービス併設で、2ユニットのグループホーム「フラワーガーデン」がある。太陽の日差しを受けた中庭には、季節の花が咲き乱れ、利用者は、リビングでマッサージ機にかかりながら、眺めたり、庭に出て花を摘んだり、手入れをしたりして、さわやかな一日が始まる。「人格の尊重」「笑顔」「感動」を理念の柱とし、管理者と職員は、絶妙のチームワークと、信頼関係で、利用者一人ひとりの目線に立って、笑顔と気配りで介護サービスを提供する姿は、家族の深い信頼に結びつき、医療連携体制の確立と合わせ、利用者の健康管理は万全のものがある。また、運営推進会議委員の協力で、地域との関係も深まり、地域に貢献していく福祉事業所を目指し、日々、努力が続く「フラワーガーデン」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年04月25日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所内に掲示している。発揮できる場を設け、活動出来る様に努めている。	「人格の尊重」「笑顔」「感動」というホーム独自の理念を掲げ、職員間で理解し、利用者一人ひとりの生き方を尊重した介護サービスを実践している。また、法人理念も掲げ、地域福祉の核となるべきホームのあり方を目指している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園を訪問したり、散歩等で出会った方々と挨拶を交わしている。	隣接の保育園児との交流(マラソン大会の応援)や、ホームでの夏祭りには地域の方の参加がある。また、川の清掃作業、地域行事の手伝い等に積極的に出向き、存在感と頼りがいのあるグループホームとして周知してもらえるよう、職員が努力しているところである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや、音楽会・その他行事の時は、案内や声かけを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からの意見や各分野の方からの助言を参考にし、改善に向け対応している。	2ヶ月毎に開催し、町内会長の情報提供等で地域行事に参加したり、委員から意見や質問を出してもらい、検討し、次回の会議で回答する等、運営推進会議を活かした取り組みが出来ている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議後に、介護上の疑問点等を相談している。	運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状を理解してもらい、情報やアドバイスをもらっている。また、問題や課題等、行政担当窓口に出かけ、情報や相談を持ち込む事もある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や会議の場で話し合い、確認を行っている身体拘束は(事故に繋がらない場合を除いて)禁止している。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、拘束をしないための介護サービスを実践するため、職員間で目標を掲げ、声をかけ合い、気づきを伝え合って、身体拘束廃止に向けた努力を続けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、会議の場で常に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、職員会議などで勉強している。	現在、制度利用者がおられ、後見人と話し合ったり勉強会を開く等、制度の利用に向けた支援体制が出来ている。また、契約時、利用者や家族に、制度についての説明を行い、理解をしてもらっている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、不安や疑問点がない様時間をかけて、十分に説明を行っている。また、いつでも説明出来るよう体勢を整えている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議での意見交換また、来館時に会話の中での意見や要望などその都度改善や対応が出来る様になっている。	家族面会時、担当スタッフを中心に、出来るだけ家族と話す機会を作り、家族の意見を聴き出す努力をしている。また、家族の交流を目的とした行事を多く行なうよう心がけている。電話やホーム便りの郵送等で利用者の現状を報告している。	家族の心情を察し、悩みや心配事等、家族同士で共有できる機会を作り、行事を兼ねた家族交流会を開く等、家族同士の親睦を深め、ホームとの信頼関係に繋げる努力を期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や要望など言いやすいように、雰囲気作りに努め改善、反映出来るように心がけている。	定期的に毎月職員会議を開き、職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努め、活発に意見交換が行なわれ、職員間の信頼とチームワークを活かした介護サービスに取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が、やる気と向上心が持てるような役割を考慮したり、シフトや希望休など配慮している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	学歴・経験・年齢など重視せず、福祉に対する思いや、やる気を重視し採用している。	職員の採用は経験、年齢、性別の制限はなく、やる気や人柄を重要視している。また、職員の技術の向上を目指し、外部、内部の研修に派遣し、向上心を持って、生き生きと働ける環境整備に努めている。	職員がリフレッシュしながら働ける環境にいくため、休憩室、休憩時間等の配慮を期待したい。
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や研修等で定期的に話し合っている職員間でもその都度気がついた時は注意し合って改善している。	理念に人格の尊重を掲げ、利用者の人権尊重を謳い、職員全員で共有し、実践に向けた取り組みがある。また、外部研修に参加し、内部研修で職員全員が共有できる体制を整えている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力を把握し、それぞれにあった研修に積極的に参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先で交流やネットワーク作りが出来るように、個々にあった研修に参加し会議などで共有出来るようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や動作から察知し、話しやすいように配慮しながら対応して改善出来るように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃から来苑された時は、常に話をするようにし、何でも話して頂けるような雰囲気作りを心がけている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている事を汲み取り、色々なサービス利用を説明して、選択肢が選べる様に対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来る作業や趣味やレク等共有出来る様に努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活状況を手紙や来苑時に報告している。また、行事などにも参加して頂き親交を深めたい。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員が家族という立場になって過ごしやすいように対応している。	利用者の昔馴染みの人や場所の関係を職員が把握し、利用者の希望に応じた取り組みが出来ている。また、ホーム全体で訪ねやすい雰囲気作りに努め、近所の方や友人、知人の訪問も多く、馴染みの関係継続に取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者間に入り作業やレクなど一緒に楽しんで頂けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に行事等の案内状を送付している。また、法事等にも出席している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員決め、希望や要望を聞いて全職員が把握、対応出来るようにしている。	職員は、利用者に寄り添い、昔話を聴いたり、その表情、家族からの情報等で、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族の協力を得ながら、個別支援を含めた利用者の思いを実現する取り組みがある。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの情報を収集して、安心して楽しく過ごして頂けるように本人にあった環境作りをしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間による申し送りや、伝達ノート、他の記録類にて把握して共有している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や、ご家族からの希望や要望を考慮し、カンファレンスを行い、必要に応じた意見や要望が組み込まれるよう工夫している。	利用者や家族から、希望や思いを聞き取り、伝達ノート、朝礼ノート、毎日の実施チェック表をもとに、介護計画を定期的に作成している。また、家族と連携を取りながら利用者の急変時に備え、その都度介護計画の見直しの出来る体制を整えている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや、伝達ノート、介護記録、会議で話し合い把握している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や入居者様の要望で、通院や買い物・お墓参り、外泊などの支援も柔軟に対応している。併設の事業施設との連携により入居者様のニーズに応じたサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアや園児と交流したり、学校からの体験学習の受け入れて協力や交流を深めている。また避難訓練時は消防署の協力も受けている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族の意向を重視し医療が受けられるようにしている。また、月2回の往診にて、主治医、ご家族様、職員と連絡を密にしている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医、協力医の選択をしてもらっている。利用者の状態変化に合わせ、24時間医療受診が可能で、定期往診以外の往診も行なわれる等、安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや、伝達ノート、個別の医療記録ノートなどにて、情報を共有し連携を取り異常の早期発見に努め、看護職員の協力を仰ぎ対応している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に全職員が交代でお見舞いに行き、医師などに説明をしてもらい状態を把握出来る様にしている。また、退院時の受け入れ態勢を話し合い準備を整えている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議にて、入居者様の問題点や家族の意向を考慮しながら、対応策を話し合い、ご家族様の意向を確認しながら医師との連携を図っている	重度化や終末期に向けた指針を作成し、ホームで出来ること、出来ないことを明示し、利用者がいつまでも安心して過ごせる体制を作っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を職員全員が定期的受講している。また、緊急時のマニュアルを作成し、いつでも実践出来る様に、勉強会をしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年2回、避難訓練、呼集訓練を実施している。	年2回、法人全体で防災訓練を実施し、事業所間の協力と職員の連携体制を確立した避難訓練が出来ている。また、避難経路、非常口、避難場所、非常用機器等を日常的に職員間で確認している。	非常災害時には、地域住民の協力は不可欠であり、夜間を想定した避難訓練を、地域住民の参加を得て実施し、非常食、飲料水、非常用備蓄等の準備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の背景を尊重し(生活習慣・過去の仕事・趣味)理解して対応している。また、個人情報保護法厳守して、安心して日常を送れる様配慮している。	利用者と職員は深い信頼で結ばれ、心配したり心配されたりの関係の中で、職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、プライドを傷つけない介護サービスの実践を目指している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人々に合わせ、自ら決めて頂けるような選択肢の声かけを行い、スタッフとの会話が自然に出来る環境作りを心掛けています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の希望に添える様にまた、生活リズムに合わせた支援をおこなっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個々に合わせた服装や、本人の希望や好みを重視している。訪問理美容にては、本人の好みや、ご家族様の希望により整髪出来るように支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員が会話しながら楽しく食事の準備をしたり、片付けをして活躍して頂ける様支援している。	食事は、利用者の大きな楽しみであり、重度化した利用者にも口から食べてもらえるよう、職員全員で話し合い実践する等、残存機能を活かした取り組みを行なっている。また、利用者と職員が、同じテーブルで賑やかに笑い合いながら食事する様子は、楽しそうである。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はチェック表にて把握し、栄養バランス等が確保出来る様にしている。また、入居者様個々の摂取状況や能力に応じ、食事形態や用具を工夫して支援している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの徹底と入居者様に合わせた口腔ケアを支援している。また、必要に応じて訪問歯科を導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄のリズムを把握し、さりげない声かけにて誘導し失敗がないように見守りや声かけを行っている。また、オムツやリハパンの使用を減らしながら自立に向け支援している。	日中、利用者全員がトイレで排泄出来るよう職員間で話し合い、全員がトイレの排泄に取り組んでいる。職員は、利用者の排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄できる喜びと自信回復に繋げる支援を実践している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給、腹圧マッサージ、排便コントロール等支援している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本毎日入浴して頂いているが、個々の体調を把握し、ゆっくり、リラックスして気分よく入って頂くように支援している(パラ風呂、菖蒲風呂)	入浴は、利用者の希望を優先し、毎日入ることも可能である。ゆっくり自由に入浴することで、心身のリラックスに繋がり、近所の方に薔薇の花を分けてもらったの薔薇風呂、菖蒲湯等、楽しみな入浴になるよう工夫している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムを作り、個人に合わせて、入浴後、運動後の昼寝を取り入れている。また、夜間覚醒が多い方には、日中の活動など積極的に取り入れて生活のリズムを整えるように工夫している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状をファイルし、用法・用量などすぐに確認出来るようにしている。服薬の際にはチェック表にサインを行い服薬確認・誤薬防止・服薬責任の所在に務めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に合った作業・役割・好み等配慮して洗濯物たたみ・配膳・花の水やり等して頂き張り合いや、気分転換が出来るように支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1～2回のドライブや、ご家族様含めたの日帰り旅行等を取り入れている。また、天気がいい日には、毎日外気に触れて気分転換して頂いている。	リビングから中庭に出て、花壇や畑の散策や、植木の手入れ等、居ながらにして季節を五感で感じ取る事の出来る環境作りに取り組んでいる。また、毎月ドライブや家族同伴の小旅行等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>アクティビティにて買い物ツアーを取り入れ、支払い等極力入居者様にして頂く様にしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人に電話や、季節の手紙を書いて頂き、ご家族や知人とのコミュニケーションが取れるように支援している。</p>		
54	2.2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食卓やフロアに季節の花を飾り、壁には入居者様の作品や、写真を掲示して楽しんで頂いている。また、フロアの窓からは中庭に咲く花と明るい日差しを楽しむ事が出来る。</p>	<p>3階建てビルの1階部分に位置し、中庭で摘んだチューリップをテーブルに飾る等、ビルの中の空間を家庭的な雰囲気に演出し、落ち着いた環境の中で、利用者が穏やかに暮らすことの出来る共用空間になっている。また、各所にバリアフリーを完備し、利用者が安心して暮らせる環境を整えている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロア内の座席やソファの位置を工夫し、入居者様が自由にまた、安心して気の合う入居者様同士が寄り添える様に配慮している。</p>		
56	2.3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様の使い慣れた物をなるべく持ってきて頂き、希望に応じて趣味や好みの物を飾って個性豊かな個室となっている。</p>	<p>居室は、利用者や家族の希望で使い慣れた馴染みの家具や道具等を持ち込み、穏やかで自宅と違和感のない環境の中で、自由でのんびりと過ごせるよう工夫をしている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様個人に合わせ、残存機能を出るだけ使って頂き、自立した生活が送れる様に支援している。また、居室内の配置等、安心して動けるようにしている。</p>		